

— 無名戦士の墓 —

どんよりとして

曇った秋空から

細い雨がしとしとと降っていた。

暗い闇夜の見知らぬ山道を

敗惨の彼は

あてもなく逃げ歩いていた——

耳を聳するほどの

敵味方の打ちつづけた銃声の中で

彼は傷ついたからだを

漸く戦列を離れて

あてもなく山の方をさして

ひとり逃げ出した

戦場からのがれたいと

思った時

彼は温い人家を求めて